

Genius

English Communication

本物の学びを可能にする

Genius English Communication I 村野井 仁 *Revised*



『ジーニアス・コミュニケーション英語Ⅰ』（*Genius EC I*）を世に送り出して丸3年が経ちました。編集にあたってとにかく重視したのは、これからの世の中で生きていく若者たちにとって大切なトピックを盛り込むということでした。生徒と先生が意味のある内容について学び、理解し、考えたことを伝え合うための踏み台となるよう、編集チーム一同、工夫を凝らして作りました。

英語教育を単なるスキルの習得としてとらえるのではなく、日々の授業を通して、生徒たちの世界に関する知識を深め、多文化共生に必要な姿勢を育てたいと願う英語教師は日本にたくさんいるはずだから、こういう教科書もきっと受け入れられるはずだと私たちは願っていました。そしてその予感は的中し、*Genius EC I* を好んで使っていた先生方はたくさんいらっしゃいました。

その一方で、使ってみたいけれど英語表現が難しすぎて手がでないという声もちらほら聞こえてきました。題材を本物にするとどうしても難しい語彙が増えてしまいます。なるべく原典をそのまま変えずに生かそうとすると構文が難しくなってしまいます。今回の改訂ではこの点について考え方を变えて、抜本的な改善を加えました。語彙レベルや文構造の複雑さを思いきり下げることによって、題材の質を落とさずに生徒にとってより読みやすい、教師にとってより扱いやすい教科書になりました。

このような改訂を経た *Genius EC I Revised* の概要と背景にあるねらいをご紹介します。

▼共生につながる題材内容

改訂版においても *Genius EC I* で基本方針とした「人類共生にとって大切な題材内容」を扱うことは少しも変わりません。このことをもっとも明確に示しているのが Lesson 1 です。地球にはどんな人々が住んでいて、どんな問題があり、それらにどう立ち向かっていくべきなのか、『世界がもし100人の村だったら』を改編した教材で概観します。それに続く、*Genius EC* シリーズのほとんどのレッスンの内容がこの100人の村につながっていきます。

Lesson 2 ではふろしきという身近な日本文化の歴史を紐解き、すべての文化が人々のこころの表れであることを学びます。

Lesson 3 は、2014年にノーベル平和賞を受賞したマララ・ユサフザイさんを扱う新教材です。高校生と同じ世代のマララさんがどんな考えを持ち、どう行動したのかを本人が書いたブログ記事や国連でのスピーチに触れながら考えます。

Lesson 4 ではボルネオの熱帯雨林破壊を通して、環境を守ることの大切さを学びます。私たちの日常生活と環境破壊が結びついているということに気づくきっかけにしてほしいレッスンです。

Lesson 5 は病気に立ち向かったアレックス・スコットさんのお話です。病気や事故、そして災害によって大切な命が脅かされることは私たち人間にとって避けようがないことだと思います。生命の危機に瀕して悲しみ一色になってしまうこともあるでしょう。しかしながら、まだ幼いアレックスさんは自分の命のともしびが消えていこうと

する中で、前を向いて、自分にできることをやり抜き、その思いを多くの人の心に残しました。単なるかわいそうな話ではなく、人がどう生きるかということを考えるレッスンです。

新教材の Lesson 6 では自分の体について理解を深めます。忙しくて十分に睡眠をとれないとき脳の中で何が起きるのか、生物の授業で学ぶような語彙も使いながら学びます。意志力をいかに高めるかという心理学に基づくレッスンです。

Lesson 7 は男女差別を乗り越えて女性の柔道を広めたアメリカ人柔道家の話です。あからさまな差別を受けても柔道をあきらめなかったラスティ・カノコギさんの人生からさまざまなことを考えます。本課に対応した Read On! 7 には、ジャッキー・ロビンソンさんの読み物が新たに加えられました。性差別、人種差別、そして身の回りにはびこるあらゆる差別について、しっかりと考えてみる機会になると思います。

Lesson 8 では水の問題について考えます。豊富にあると考えられる水が実は足りないという事実があること、そして、日常的に食べたり、使ったりしている食品や製品に多くバーチャル・ウォーターが含まれており、私たちは知らずに消費していることを学びます。改訂版では水不足への対策の一つとして北九州市が進めている海水の淡水化についての情報も加えられました。

Lesson 9 はフェア・トレードです。「買い物は政治だ」(p.114) という U2 のボノさんのことばが示す通り、賢く買い物をすることは、搾取や環境破壊、児童労働などによって苦しんでいる人たちに間接的に支えることになります。国際的な相互依存関係、つまり、私たちは一人では生きていけないことについて学び、自分たちに何ができるのかを考えます。

Lesson 10 は、多くのユダヤ人の子どもたちをホロコーストから守ったポーランド人、イレーナ・センドラーさんのお話です。自分の命を危険にさらして子どもたちを救ったその行為から、人

の意志の強さ、戦争の愚かさについて考えます。

このようにすべてのレッスンが人間と世界、いのちと共生にしっかりとつながっています。

▼ 4 技能統合型の授業

これらの本物の内容に関して生徒と教師がテキストを理解することによって知識を広げ、そして、その概要や自分の考えを他者に伝える、そのようなインプットからアウトプットにつながる授業が展開しやすいようにさまざまな言語活動が Communication Activities として用意されています。

本文の内容を要約しながら英語で再生するための補助となるコンセプト・マップは、各パートごとに区切った形で提示するようにしました。本文内容に沿ったディスカッションができるように議論のためのポイントも揃えてあります。Genius EC I の言語活動の中で最も特徴的なのが Project です。「調べ学習」を行ってその成果を発表するというまさに本物の学習 (authentic learning)、そして本物の言語使用の機会になっています。

▼ CLIL 的要素を持った英語授業

このように深い題材内容に関して、生徒たちが聞いたり、読んだり、話したり、そして、書いたりすることによって、知識・技能・姿勢をバランスよく育てることを Genius EC I Revised はめざしています。本物の学習を促す点においてこのような英語授業は、近年注目を集めている CLIL (content and language integrated learning/内容言語統合型学習) の要素を持っていると考えられます。Genius EC I Revised は、生徒を自律した社会的存在 (social agent) として扱い、生徒たちがさまざまな問題に関して自分自身の声 (voice) を上げることができるようになることを願って作られたユニークな英語教科書なのです。(むらのいひとし・東北学院大学教授・文学部長)